

グローバル全生物ゲノム株式ファンド (1年決算型)

追加型投信／内外／株式

交付運用報告書

第2期（決算日2020年12月7日）

作成対象期間（2019年12月10日～2020年12月7日）

第2期末（2020年12月7日）	
基準価額	20,354円
純資産総額	95,986百万円
第2期	
騰落率	84.3%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）」は、2020年12月7日に第2期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<644552>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

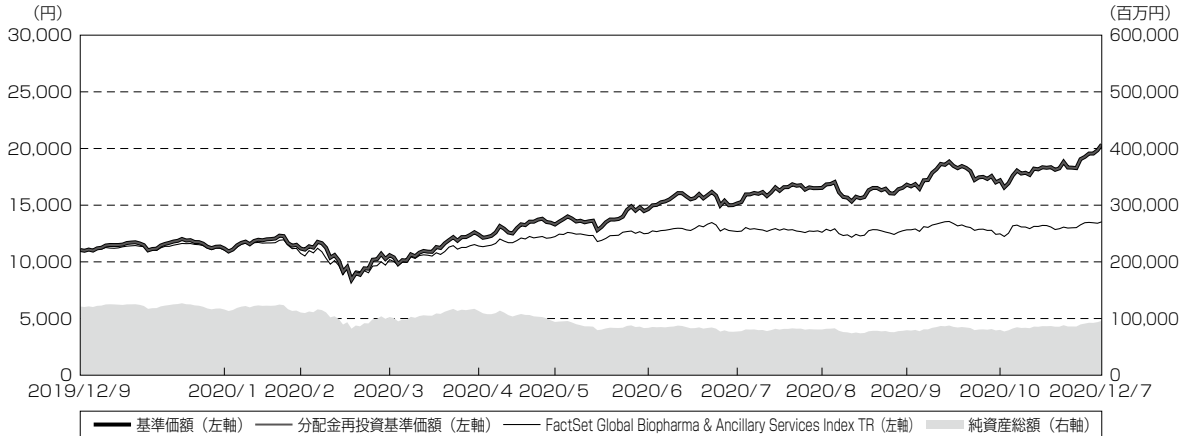
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2019年12月10日～2020年12月7日）



期 首：11,045円
 期 末：20,354円（既払分配金（税込み）：0円）
 騰 落 率：84.3%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびFactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは、期首（2019年12月9日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・新型コロナウイルスのワクチンの第Ⅲ相臨床試験において高い有効性が確認されたメッセンジャーRNA（mRNA）に関する技術を有する企業の株価が上昇したこと。
- ・2020年のノーベル化学賞に遺伝子編集技術である「CRISPR-Cas9」を開発した研究者が選ばれたことで、遺伝子編集技術や当該技術を有する企業への関心や期待が高まったこと。
- ・医師や患者、プロバイダーのネットワークが治療の継続性の維持のために遠隔医療を採用するなど、

バーチャル・ヘルスケアの普及が加速するなか、関連企業の収益の成長性への期待が高まったこと。

<値下がり要因>

- ・新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって臨床試験全般の進捗に遅れが生じており、臨床試験の採用や規制当局の承認が遅れた企業の収益への影響が懸念されたこと。
- ・米国における全国的なロックダウン（都市封鎖）により、臨床医による生体組織診断などの実施が妨げられるなど腫瘍医療分野が混乱し、診断状況全般への影響が懸念されたこと。
- ・投資主要通貨であるアメリカドルが円に対して下落したこと。

1万口当たりの費用明細

(2019年12月10日～2020年12月7日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 253	% 1.794	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(131)	(0.930)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(116)	(0.820)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	(6)	(0.044)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	14	0.102	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（株式）	(14)	(0.102)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	3	0.022	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（株式）	(3)	(0.022)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	6	0.040	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(3)	(0.019)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	(1)	(0.006)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（その他）	(2)	(0.011)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	276	1.958	
期中の平均基準価額は、14,126円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

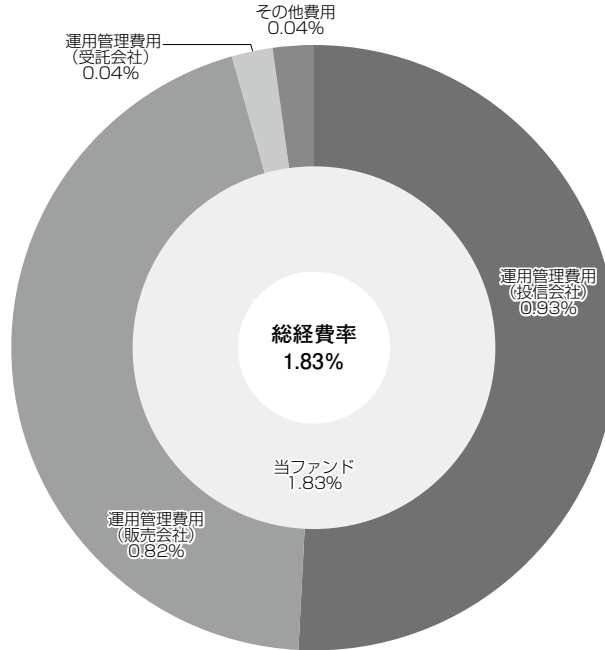
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.83%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

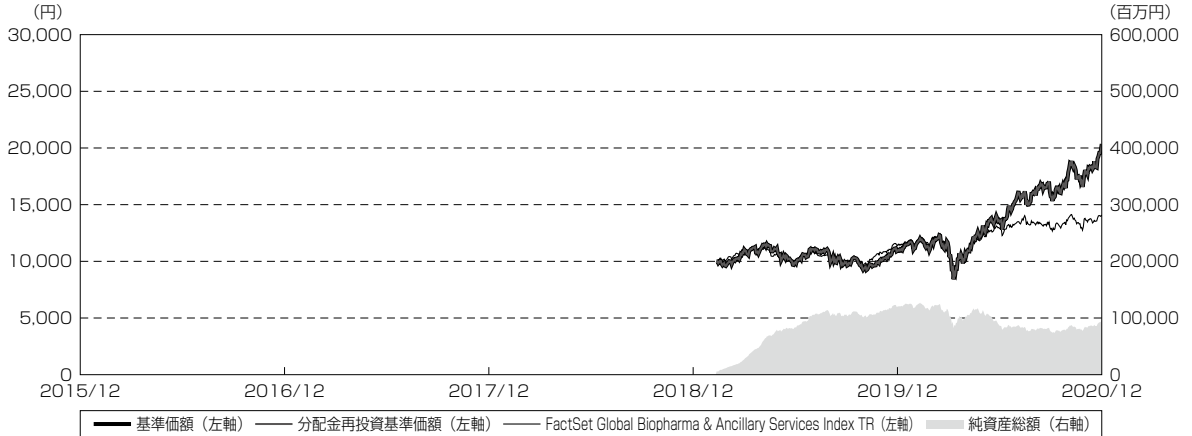
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2015年12月7日～2020年12月7日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 当ファンドの設定日は2019年1月16日です。

	2019年1月16日 設定日	2019年12月9日 決算日	2020年12月7日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,045	20,354
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	10.5	84.3
FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR騰落率 (%)	—	15.0	22.5
純資産総額 (百万円)	5,721	121,171	95,986

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2019年12月9日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは当ファンドの参考指数です。
参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。

投資環境

（2019年12月10日～2020年12月7日）

（株式市況）

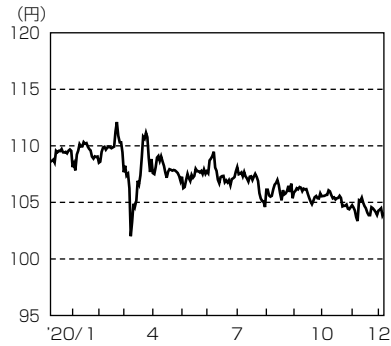
海外株式市場では、期間の初めと比べて米国などの株価は上昇したものの、欧州各国などの株価はまちまちの動きとなりました。

期間の初めから2020年3月中旬にかけては、米中貿易協議での「第1段階」とされる原則合意により今後の貿易協議の進展が期待され、投資家のリスク回避姿勢が後退したことなどが株価の上昇要因となったものの、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が世界経済の急激な停滞を招くとの警戒感が高まったことや、原油価格の急落によりエネルギー企業の業績悪化が懸念されたこと、新型コロナウイルスの感染拡大による金融市場の動揺を受けて投資家が現金保有比率を高めるために株式を売却する動きが先行したことなどから、米国や欧州各国などの株価は総じて下落しました。3月下旬から期間末にかけては、米国において追加経済対策の合意への期待が後退したことなどが株価の重しとなったものの、米国や欧州において新型コロナウイルスの感染者数の増加ペースが鈍化し感染拡大がピークを越えつつあるとの観測から、経済活動の早期再開の見方が高まったことや、米国政権と与野党の議会指導部が2兆アメリカドル規模の経済対策で合意したこと、米国連邦準備制度理事会（FRB）が個別企業の社債の購入を開始したこと、新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの開発進展への期待が高まったことなどが株価の支援材料となり、米国や欧州各国などの株価は総じて上昇しました。

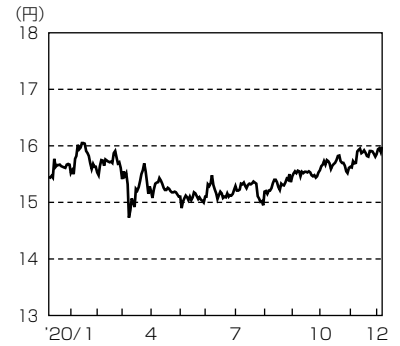
（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）
は、右記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



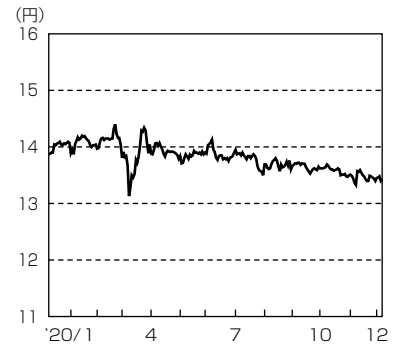
円／香港・オフショア人民元の推移



円／スイスフランの推移



円／香港ドルの推移



当ファンドのポートフォリオ

（2019年12月10日～2020年12月7日）

（当ファンド）

当ファンドは、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行いませんでした。

（グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド）

期間中の主要な投資行動は以下のとおりです。

lluminaについて、同社が米国のバイオテクノロジー企業GRAILを買収する意向を表明した後、投資比率を引き下げました。同社の中核となるシーケンシング事業は、他社が価格の引き下げを続けているため、深刻な価格競争に直面しています。GRAILの技術力と同社のデータには優位性がありますが、それらの特徴だけでは診断分野での強豪企業となるには十分ではないと考えています。また、Cellular Biomedicine Groupについては、同社最高経営責任者（CEO）を中心としたコンソーシアムによる非公開化の発表などを受けて、同社のポジションを解消しました。

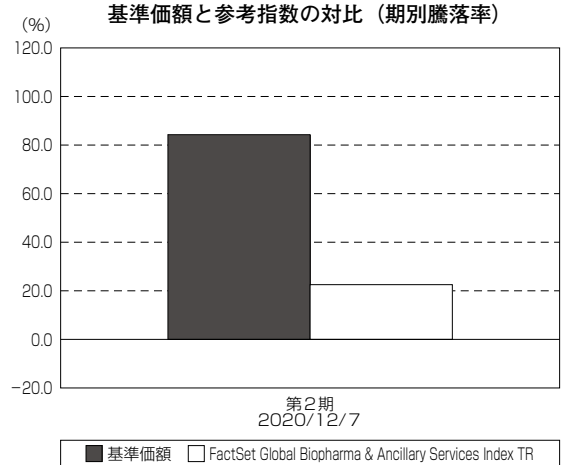
一方、ゲノム解析のためのカスタムメイドのアセンブリ／ストレージスタックを提供する製品群に強みがあり、ゲノミクス分野におけるデータストレージに独自の価値を提供しているPure Storageに新規に投資を行いませんでした。また、遺伝子編集に対する革新的なアプローチを評価し、Beam Therapeuticsのポジションを構築しました。同社は、塩基編集による血液疾患や肝臓疾患の治療法に注力していますが、塩基編集は悪影響やオフターゲット（意図しない作用）の遺伝子編集を引き起こす可能性が比較的低いとみられ、このアプローチが単発性疾患に非常に有益であると考えられます。その他、Livongo Healthの買収を受けて業界内での地位が高まることが予想されるTeladoc Healthのポジションを引き上げました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2019年12月10日～2020年12月7日）

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

（注）FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TRIは当ファンドの参考指数です。

分配金

（2019年12月10日～2020年12月7日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第2期
	2019年12月10日 ～2020年12月7日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	10.353

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

（グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド）

技術革新の進歩や費用曲線の低下に関連したデフレ圧力が中長期的にゲノム企業・ゲノム関連企業の売上数量の増加をもたらし、生産性、収益性を押し上げることになると予想しています。より重要なこととして、DNAシーケンシング（DNA（＝核酸）を構成する塩基の配列を決定すること）やゲノム編集などに関連する技術的進歩によって科学的発見のペースが加速することで、病気の症状だけを抑えるという治療ではなく、患者一人ひとりの病気を根治するパーソナル治療の時代の到来が予見されることです。癌などの腫瘍治療に対する世界の支出は、CAR-T療法（患者から採取したT細胞（＝骨髄の幹細胞に由来するリンパ球の一種）に、がん細胞を攻撃する遺伝子改変を加えたうえで患者の体内に戻す治療法）などが進歩するなかで増加する見通しで、これによる世界の関連企業の収益は年間で4,300億アメリカドルを超える可能性があるとの試算もあります。治療の選択肢が拡大することで、シーケンシングに対する需要が一段と高まると思われ、シーケンシングは既存の医療分野の一部になると考えられます。また、これらの技術はヘルスケアの分野を超えて拡大することが予想されており、例えば、土地や海洋を人為的に改変したことで引き起こされる土壌汚染や海洋汚染をゲノム技術の活用によって低減させ、それによって持続可能な作物の栽培や水産生物の養殖が可能となります。当ファンドでは、DNAシーケンシングやゲノム編集、AI技術などの融合を活かし、世界経済においてあらゆる産業に影響を与える可能性がある企業を選好していく方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

お知らせ

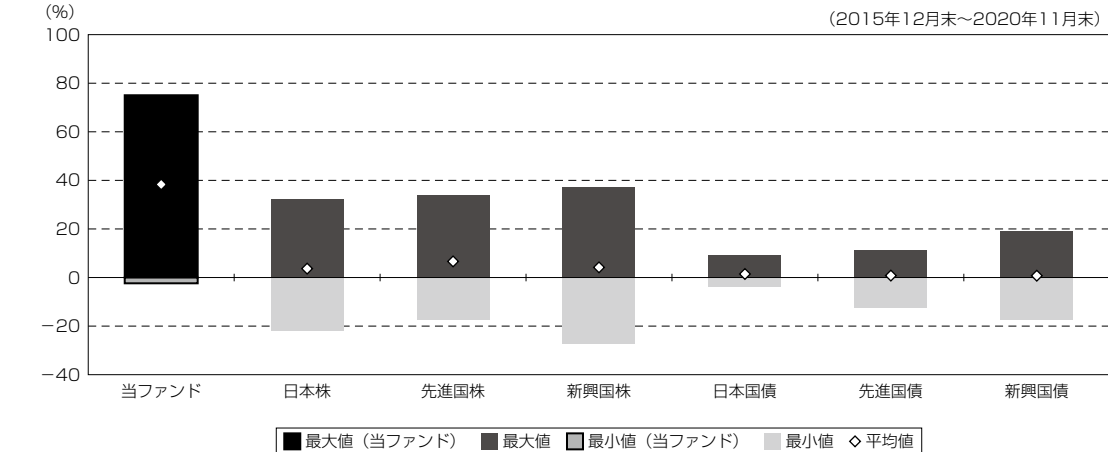
2019年12月10日から2020年12月7日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2019年1月16日から2028年12月7日までです。	
運用方針	主として、「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）	「グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	日本を含む世界の金融商品取引所上場株式（預託証券を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	主として、日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、ゲノム技術に関連するビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。株式の銘柄選定にあたっては、各企業の成長性、収益性、財務健全性、流動性などを勘案して行ないます。外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないません。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	75.0	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△2.4	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	38.3	3.7	6.6	4.2	1.5	0.8	0.8

- (注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- (注) 2015年12月から2020年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2020年1月以降の年間騰落率を用いております。
- (注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
- (注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

- 日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)
 - 先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)
 - 新興国株：MSCIマーキング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)
 - 日本国債：NOMURA-BPI国債
 - 先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
 - 新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースイファイド (円ヘッジなし、円ベース)
- (注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドの参考指数について

●FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Index TR

FactSet Global Biopharma & Ancillary Services Indexは、ファクトセット社が開発した世界のバイオ医薬品の開発、研究、製造、ソフトウェア技術等を手掛ける企業の株式で構成された指数です。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。

●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

●MSCIマーキング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が開発した、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースイファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2020年12月7日現在）

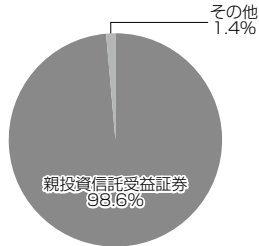
○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
	%
グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド	98.6
組入銘柄数	1銘柄

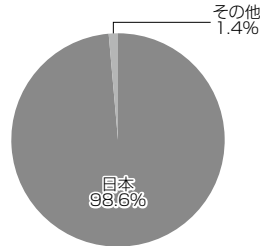
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

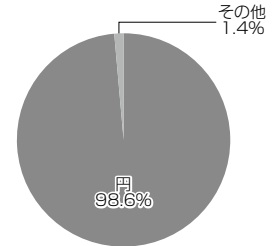
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

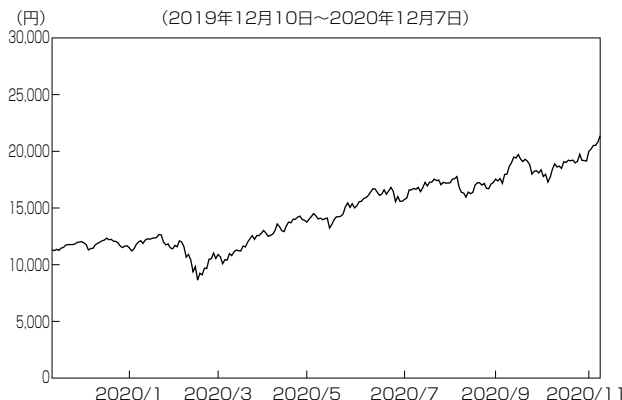
項目	第2期末
	2020年12月7日
純資産総額	95,986,445,460円
受益権総口数	47,159,482,786口
1万口当たり基準価額	20,354円

（注）期中における追加設定元本額は16,705,414,823円、同解約元本額は79,252,616,038円です。

組入上位ファンドの概要

グローバル全生物ゲノム株式マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2019年12月10日～2020年12月7日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	15 (15)	0.103 (0.103)
(b) 有価証券取引税 (株式)	3 (3)	0.022 (0.022)
(c) その他費用 (保管費用)	4 (3)	0.030 (0.019)
(その他)	(2)	(0.011)
合計	22	0.155

期中の平均基準価額は、14,656円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

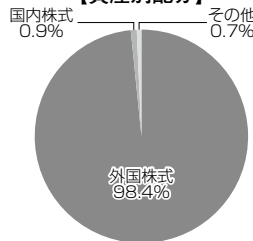
【組入上位10銘柄】

(2020年12月7日現在)

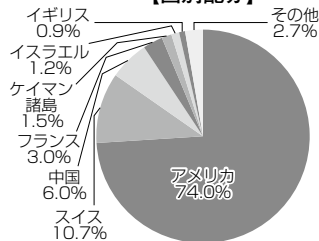
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 INVITAE CORP	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	8.2%
2 CRISPR THERAPEUTICS AG	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	スイス	7.8%
3 TWIST BIOSCIENCE CORP	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	5.6%
4 CAREDX INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	4.7%
5 INTELLIA THERAPEUTICS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	4.1%
6 IOVANCE BIOTHERAPEUTICS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	3.5%
7 BGI GENOMICS CO LTD-A	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	香港・オフショア人民元	中国	2.9%
8 FATE THERAPEUTICS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	2.9%
9 PERSONALIS INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	2.7%
10 EDITAS MEDICINE INC	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	アメリカドル	アメリカ	2.5%
組入銘柄数		59銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
 (注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

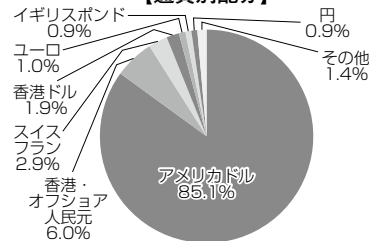
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
 ※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）

【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期 2019年12月9日現在	第2期 2020年12月7日現在
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	2,184,693,280	3,032,283,640
親投資信託受益証券	120,083,766,864	94,669,367,697
流動資産合計	122,268,460,144	97,701,651,337
資産合計	122,268,460,144	97,701,651,337
負債の部		
流動負債		
未払解約金	306,633,684	969,983,473
未払受託者報酬	19,089,156	17,988,634
未払委託者報酬	763,568,120	719,547,921
未払利息	322	1,844
その他未払費用	7,592,397	7,684,005
流動負債合計	1,096,883,679	1,715,205,877
負債合計	1,096,883,679	1,715,205,877
純資産の部		
元本等		
元本	109,706,684,001	47,159,482,786
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（△）	11,464,892,464	48,826,962,674
（分配準備積立金）	4,495,574,150	38,474,332,133
元本等合計	121,171,576,465	95,986,445,460
純資産合計	121,171,576,465	95,986,445,460
負債純資産合計	122,268,460,144	97,701,651,337

【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第1期		第2期	
	自	2019年1月16日 至 2019年12月9日	自	2019年12月10日 至 2020年12月7日
営業収益				
受取利息		2,447		1,491
有価証券売買等損益		5,968,870,881		59,254,121,222
営業収益合計		5,968,873,328		59,254,122,713
営業費用				
支払利息		857,582		505,485
受託者報酬		31,603,980		42,429,935
委託者報酬		1,264,163,417		1,697,202,248
その他費用		8,931,636		10,131,442
営業費用合計		1,305,556,615		1,750,269,110
営業利益又は営業損失（△）		4,663,316,713		57,503,853,603
経常利益又は経常損失（△）		4,663,316,713		57,503,853,603
当期純利益又は当期純損失（△）		4,663,316,713		57,503,853,603
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（△）		167,742,563		20,450,158,322
期首剰余金又は期首欠損金（△）		－		11,464,892,464
剰余金増加額又は欠損金減少額		7,420,581,318		9,755,227,318
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		－		－
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		7,420,581,318		9,755,227,318
剰余金減少額又は欠損金増加額		451,263,004		9,446,852,389
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		451,263,004		9,446,852,389
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		－		－
分配金		－		－
期末剰余金又は期末欠損金（△）		11,464,892,464		48,826,962,674